9.　可変バルブタイミング（VVT）システム

OBDは、可変バルブタイミング（VVT）システムを装備したエンジンにおいて当該システムの以下の要素が適切に作動しているか監視するものとする。

(a)　VVT目標誤差

VVTシステムが命令されたバルブタイミングを達成する能力

―性能監視

(b)　VVT応答遅延

命令が出された後にVVTシステムが、自動車製作者等が定めた時間間隔内に命令されたバルブタイミングを達成する能力

―性能監視

10.　エンジン冷却システムの監視

OBDは、エンジン冷却システムの以下の要素が適切に作動しているか監視するものとする。

エンジン冷却水の温度（サーモスタット）

―完全機能故障監視

開いたままで閉じないサーモスタット等、故障によって他のOBD監視が無効にならない場合、サーモスタットを監視する必要はない。

自動車製作者等は、エンジン冷却水の温度又はエンジン冷却水の温度センサがエミッションコントロールシステムのクローズドループ、フィードバック制御を有効にするために使われない場合、又は他の監視を無効にする仕組みになっていない場合は、エンジン冷却水の温度又はエンジン冷却水の温度センサを監視する必要としない。

自動車製作者等は、暖機時間の50％から75％を超える時間にわたるアイドリングでの車両の運転等のエンジンが誤診断につながるおそれのある状況となった場合には、クローズドループ有効化温度に達するまでの時間にわたって監視を停止又は遅延させることができる。

11.　排出ガス及び酸素センサの監視

OBDは以下を監視するものとする。

OBDは、排出ガスセンサを装備したエンジンにおいて当該センサの電気的要素が本別紙の1.に従って適切に作動しているか監視するものとする。

―部品監視

12.　アイドリング回転数制御システムの監視

OBDは、アイドリング回転数制御システムを装備したエンジンにおいて当該システムの電気的要素が本別紙の1.に従って適切に作動しているか監視するものとする。

―部品監視

別紙２

異常―故障コードステータスの図解―MI及びカウンタ作動条件の図解

本別紙は、2.2.及び2.5.5.に定める要件の図解を目的とする。

本別紙には以下の図を示す。

図１　クラスＢ１故障発生の際の故障コードステータス

図２　２回の連続した異なるクラスＢ１故障発生の際の故障コードステータス

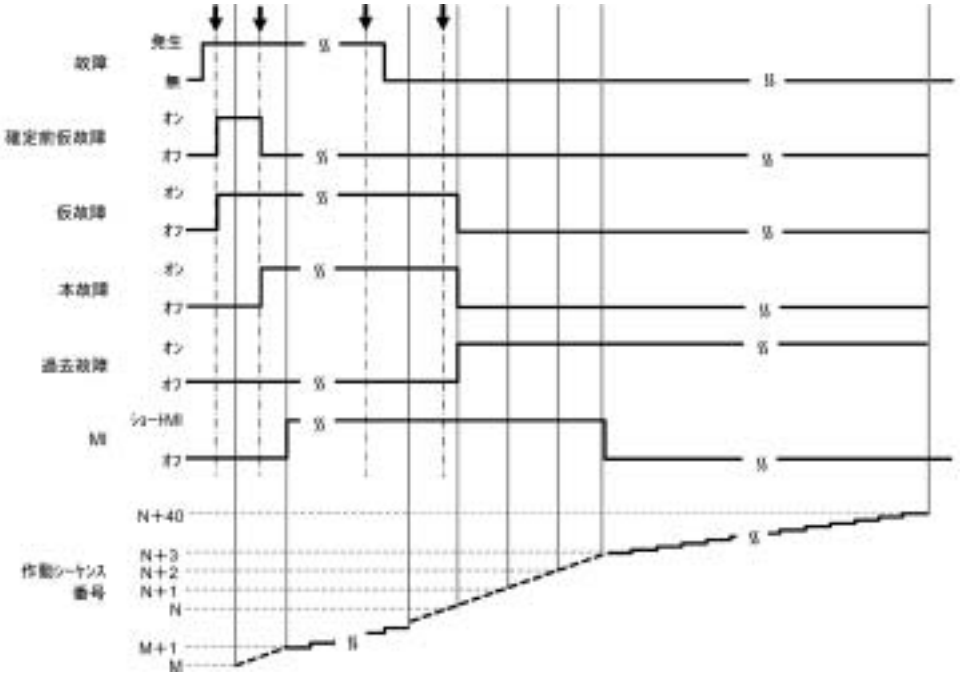
図３　クラスＢ１故障再発生の際の故障コードステータス

図４Ａ　クラスA故障―MI及びMIカウンタの作動

図４Ｂ　連続式MI作動停止の動作を示す図

図５　クラスＢ１故障―５つの事例におけるＢ１カウンタの作動

図１　クラスＢ１故障発生の際の故障コードステータス



(注)　図中の矢印は、該当する故障の監視が実行されたポイントを示す。

N、Mの説明：本技術基準では、一部の事象が発生する「主要」作動シーケンスの特定とそれに続く作動シーケンスのカウントを要求している。この要件を図示するために、「主要」作動シーケンスにはNとMの値が与えられている。

Mは確定前仮故障の検知後の最初の作動シーケンスを示し、Nは本故障がオフに切り替わった作動シーケンスを示す。

N＋40の説明：MIが消灯してから40回目の作動シーケンス又は200時間のエンジン稼動のいずれか早い方。